

平成27年度事業報告（養徳園）

1 運営全般について

平成27年度事業計画に基づき、基本的な生活援助の充実や心理面に配慮した援助に努めたほか、生い立ちの整理と育ちアルバムの実践を年間テーマとし、また、被虐待児への治療的アプローチ、職業指導、リービングケア及びアフターケアの強化、学習指導の充実、性教育の実施、施設養護におけるソーシャルワーク機能の充実、里親委託の推進を重点目標とし、児童援助の向上に努めた。

また、給食・環境美化・安全管理・広報の4つの委員会を設けて、職員の一一致協力の下、施設運営にあたった。

広報紙「オアシス」を3回発行するとともに、ホームページを通じ情報の公開に努めた。

2 児童の動向

(1) 学年別在籍数（措置児童）

平成27年4月1日現在（オアシスの家・野辺山の家を含む）

	未就学児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	他	計
男	2	1		1	4	3	2	1	2	3	1	2	1		23
女	1	1	2	4	3		5	2	4	2(1)		2	1	1	28(1)
計	3	2	2	5	7	3	7	3	6	5(1)	1	4	2	1	51(1)

平成28年4月1日現在（オアシスの家・野辺山の家を含む）

	未就学児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	他	計
男	2	1	1	1	1	4	3	2	1	2	2	0	1	1	22
女	3	0	0	3	5	2	0	5	1	4	4	0	2	1	30
計	5	1	1	4	6	6	3	7	2	6	6	0	3	2	52

()は一時委託保護

(2) 月別入退所の状況（措置児童）

月	性別	初日 在籍数	入所数	退 所 数				月末 在籍数
				家庭復帰	措置変更	就職自立	里親	
4	男	23		2	1			20
	女	28(1)	1					29
5	男	20						20
	女	29						29
6	男	20	(1)					20(1)
	女	29			1			28
7	男	20(1)						20(1)
	女	28						28
8	男	20(1)						20(1)
	女	28	(1)					28(1)
9	男	20(1)						20(1)
	女	29	1*・1					30

10	男	21	1*				21
	女	29			1*		29
11	男	21					21
	女	29	(1)				29(1)
12	男	21					21
	女	30	1*				30
1	男	21					21
	女	30					30
2	男	20			1*		20
	女	30					30
3	男	20		1			19
	女	30	2		1	1	30

()は一時保護委託(レスパイトケアを含む)

※は1日付け入退所

(3) 一時保護委託(レスパイトケアを含む) 利用状況

年齢・学年・性別	児相	期間	年齢・学年・性別		期間
小4女	県北	4/5~4/17	小3男	中央	10/15~10/28
中2男	県北	7/9~8/4	中1男	中央	12/17~12/27
小6女	中央	7/20~7/21	1歳男	県北	3/3~3/30
3歳女	県北	8/18~8/27	中1男	中央	3/9~3/18
4歳女	県北	8/18~8/27	小4男	中央	3/11~3/18
小5男	中央	10/15~10/28			

一時保護ののち措置入所になったケースを含めない。その場合は措置入所として(2)に掲載。

(4) ショートステイ

矢板市4日(小6女児)、大田原市17日(0歳女児2回、0歳女児)

高根沢町5日(3歳男児2回)、さくら市1日(0歳女児)

(5) 高校進学、卒園生の進路等

3 養護の状況

(1) 給食

毎月行う献立会議での話し合いを基に、子どもの発達に必要な栄養バランス及び嗜好を考慮し食事を提供した。

初めての試みとして1日まるごとユニット調理の日を設けた。3食とも献立作り、買い物、調理までしてもらった。栄養計算は献立表を提出してもらい、そこから計算した。

献立表の各ユニット・食堂掲示は継続して行った。

(2) 健康管理

①健康診断

嘱託医のDr 花塚による健康診断を前期6月5日 後期10月24日に実施した。
野沢歯科医院にて歯科検診6月13日に実施した。

②予防接種

インフルエンザ 58名 日本脳炎 9名 ポリオ 4名
二種混合ワクチン 1名 4種混合ワクチン 1名 麻疹・風疹 2名

③検診

5歳児検診 1名

④通院 (述べ477名) 入院2名

内科 67名 (花塚クリニック、小林医院、檜山医院、那須南病院、済生会、黒須病院)

歯科 26名 (野沢歯科)

眼科 38名 (済生会、加藤眼科、早坂眼科、国際医療福祉大学病院、原眼科)

皮膚科 129名 (氏家皮膚科、おのこどもクリニック、檜山医院)

小児科 71名 (済生会、国際医療福祉大塩谷病院、おのこどもクリニック、黒須病院)、

耳鼻科 33名 (中川耳鼻科)

整形外科 20名 (半田クリニック、深澤クリニック)

外科 17名 (黒須病院、独協医科大学形成外科、国際医療福祉小児外科)

脳神経科・精神科、神経科 72名 (精神保健センター、自治医大子供のこころの診療科、
とちぎリハビリテーション、国際医療福祉大リハビリセンター)

⑤入院 2名 (済生会宇都宮病院小児科、国際医療福祉大学病院)

(3) 援助の実際

①生い立ちの整理と育ちアルバム

27年度の年間テーマに位置づけ3回の園内研修を行った。

1回目 7月22日

☆育ちアルバム

- ・育ちアルバムチェックシートの記入
- ・ウエルカムメッセージカードの作成



2回目 10月22日

- ・育ちアルバム (誕生日、イベントetc) の制作
- ・育成経過記録のファイル交換作業

3回目 1月22日

- ・DVD鑑賞 「NHK ヒューマンドキュメント 家族の絆」
感想提出
- ・育ちアルバムの制作と生い立ち園長先生講義「生い立ちの整理をする目的とは」



②被虐待児への治療的アプローチ

児童相談所への通所のセラピーは、中央児相措置の1名（中2 女児1名）。県北児相措置の1名（中3 女児1名）、県南児相措置の1名（小2 女児1名）については、児相の心理職員が来園し本園にて面接が行われた。また、県北児相の被虐待児フォローアップ事業に4名（小6 男児2名、小6 女児2名）が月1回の割合で参加し、グループワークが行われた。

施設内の心理療法は、27年度も心理療法実施指定施設の認可を受け、23名の児童に対してプレイセラピー、面接（心理検査、入所アセスメント面接を含む）、生活場面面接等を実施しながら心理療法を行った。実施回数は以下のとおり。

心理療法 401回 生活場面面接 32回 コンサルテーション 72回

法人内研修では、職員を対象に「子どもの理解と援助の在り方」をテーマとして、架空の事例をもとに、入所時の子どもの情報と入所後の子どもの行動や言葉から、子どもと親の関係性や子どもの心情はどんなものなのかを話し合い、次にこの子どもに対して大人はどんなことに配慮しケアすべきかなどをグループごとに議論し、子どもを多面的にみるという視点を全職員で共有した。

成果と課題

子どもにとって安心して暮らせる生活環境を保障するために、被虐待児の行動特徴を理解し、さらに子どもの成長と発達、そして育ってきた環境などをたどりながら彼らへの理解を深めるということを共に学び、さらに形式にこだわらない、コンサルテーションなども積極的に行うよう

に努めた。これによって、それぞれの子どもへの心理的理解という点では、ケアワーカーやその他の専門職との連携が円滑にできるようになったと思われる。

今後の課題として、子どもの面接やケアワーカーとのコンサルテーションなどを通じて、そのグループのルールや子どものケアの在り方など各グループの特徴が顕著になってきたように思われる。それぞれの子どもにとって今必要なケアをグループの中で行うのは容易ではない。それぞれ課題は違うし、職員の構成メンバーや職員と子どもとの関係性もケアをする時には影響する。それぞれのグループの特徴を活かしながら、どうすれば、子どもにとって最善なケアを保障できるのか考えていけるようにしていきたい。

③ 職業指導、リービングケア及びアフターケアの強化

25年度より職業指導員が配置され活動を継続してきた。主な目的として、退所後の社会生活を想定して、その生活に必要な知識及び技能の習得を支援する。(リービングケア)さらに、施設退所後の就労・進学を含む生活状況を見守り必要に応じた支援を行うことで、安定した生活の確立と社会的自立を促すこととした。(アフターケア)

具体的な取り組みとしては、在園児童へ就職意識向上のために代表「ん太郎」氏の「短足おじさんの会」の「社会人先生」と称して、月2回様々な職業の方に講演をいただいている。実績として、動物園の園長・お寿司屋さん・パティシエ・雑誌の編集者・ラジオのアナウンサー・リホームの社長など。子どもたちは、興味・関心に合わせて積極的に参加していて、意識づけにつながっている。

職員も支援意識向上のために、11月に園内研修を行った。内容はリービングケア・アフターケアのための募金箱について、集まったお金を有効的に使うことの確認。さらに、27年3月「とちぎユースアフターケア事業協同組合」から報告された「栃木県内の児童養護施設等退所者へのアンケート調査結果報告書」を参考資料に、その読み取りと意見交換を行った。内容は①卒園生の現在の生活について②施設で生活していた時について③施設を退所した後の生活について。卒園生の経済的な悩み・生活に際しての心の問題など確認し、改めて職員の日々の積み重ね(リービングケア)が大切であると学んだ。

④ 学習指導の充実

5月には前年同様、公文施設サポート部 平松氏を講師に迎え、園内研修「子どもの自立を支援し、モチベーションを保つための指導技術」を実施。

7月(夏休み中)には「公文集中講座」を行った。午前の部9時から12時、午後の部13時から16時。予想以上の参加のうえ、午前午後合わせて参加した子もおり、新たな試みとしては良い経験をすることができた。また、子どもの日頃とは違う公文に一日中無言で打ち込む姿は驚きと感動をもたらした。

10月には公文関東広域地区勉強会に「重点支援施設」の一つとして紹介を受け、ハイブリット型学習の発表を行った。

⑤ 性教育の実施

< 取り組みの内容 >

3回にわたって園内研修で「生活の中の実践」をテーマに話し合った。

第一回(9月)

職員を対象に、発達過程にある子どもへ性的な影響をもしくは性的な刺激が加えられることで、生涯にわたり起こりえる事と、そこから回復するためには何が必要とされているか概要的に説明を行った。そのことから日常における子どもの様子を通しての疑問、知識として紹介されることと実際は違う点など、職員各々の考えや悩みを吸い上げる事ができ、研修を進めるうえで必要な情報が得られた。

(求められた事)

- ・生活内での異例を題材に職員間で情報(悩みなど)を共有し話し合える環境。
- ・事例を通じた具体的な対応を知る機会。

第二回(12月)

職員対象に、勉強会と称しQ&A形式のアンケートを実施

第三回（2月）

実際の生活場面を通し、職員が疑問に感じていた事象を題材にしたワークシートをもとに、グループ（勤続年数割）討議を行った。

- ・勉強会Q&Aアンケート結果より、他の職員の考え方に触れられた。
- ・グループ討議をすることで、様々な考え方や視点を知る機会となった。

〈来年度検討内容〉

- ・成育歴をもとに、子どもの個々にあった性教育を考えていく。
- ・危機管理マニュアルに基づき施設内に起こり得る性的な問題の対応について、職員間で共通理解を図る。

⑥ 施設養護におけるソーシャルワークの充実

「児童家庭支援センターの役割と本体施設の連携」

6月の園内研修において児童家庭支援センターの役割や機能の説明と本体施設とどう連携していくのかについて研修を行った。

児童虐待通告件数が増加する中で、要保護家庭の背景に貧困やひとり親、転居の多さ、周産期の母の不安定さなどがあるといわれる。ハイリスク家庭を支援するために児童相談所や市町村の大きな溝を埋める役割として児童家庭支援センターが期待されている。

今回の研修では児童家庭支援センターが親御さんの状況を確認するときに必要なジェノグラムや家屋の見取り図を参加者にそれぞれ書いてもらった。グループごとに話し合い、内容を共有することでそれぞれの意見を分かち合うワークを行った。

今後の課題

直接処遇（ケアワーク）をしながらも目の前の子どもの生き立ちだけでなく、親の生活状態、就労、考え方、価値観などを知ることで直接処遇の視点に長期的で将来的な予想ができてくる。ソーシャルワークの視点がなぜ大切なのか、研修教材の工夫をして参加者の日々のモチベーションを高めていく必要がある。

⑦ 里親委託の推進

	会議・行事・研修	日時	場所	内容
県	里親委託等推進委員会	①8月21日 ②11月11日 ③3月2日	県庁昭和館	<ul style="list-style-type: none"> ・里親支援専門相談員の仕事について ・新生児を含む乳幼児の早期委託推進への取り組みについて ・里や委託の実施状況について ・里親制度の広報に係る取組について ・その他
	第60回栃木県里親大会	11月22日	栃木県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演 講師：村田和木氏 「社会的養護と里親活動」 ・パネルディスカッション 「社会的養護の充実」
	支援技術向上セミナー	1月30日	恩師財団母子愛育会	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「心に問題を抱える子どもと里親支援について」 ・演習（2事例）
児相	養育里親研修（認定研修）	9月18~19日	養徳園	里親：17名 児相：6名 <ul style="list-style-type: none"> ・園長講話 ・施設職員の話 ・施設見学 ・児童との交流

	県北児相 里親サロン	毎月第3火曜	県北児相	・鷹栖律子里親 康平（里子）・児相心理士の話し・里親支援専門相談員との座談会・親子でお楽しみ・インターネットトラブルを考える・クリスマスの飾り作り等
	県北里親会里親・里子レクリエーション	8月17~20日 (17日のみ参加)	ツインリンクもてぎ	・クラフト教室・森の遊び場等 ・BQ・花火・陶芸教室
	家庭訪問	12月25日	那須塩原市	・平島祐一・洋子里親・柚（里子）
	県北地区里親研修会	2月21日	西那須野公民館	・講話：～児童養護施設における「里親の日」事業について～ 講師：赤羽朋子（養徳園） ・レクレーション～おいしい赤飯の作り方～ 講師：小口マスエ（里親）
養徳園	里親交流会	10月12日	鬼怒グリーンパーク	里親里子31名・児相・9名 養徳園、養護園子ども43名 養徳園、養護園職員21名 合計104 ・グループに分かれグリーンパーク内で活動（アスレチック、自転車等）
	里親の日	隔月第3水曜	養徳園	6月・10月・12月に計9名来園 面談・施設見学・養育体験（県の養育体験と兼ねたもの2組）
	里親制度普及啓発活動	10月17日	さくら市氏家体育館	・資料を来客に配布、説明 ・かき氷ジュース等の販売
	県北地区里親SW仕事についての検討会	3月14日	養徳園	赤羽（養徳園）・岡田（養護園） 海老沼（アリスとテレス）
	電話相談			4件
	G.R 里親委託の推進	6月30日～ 3月27日	養徳園 K里親 中央児相	4回のカンファレンス園長・赤羽・滝 3回の里親宅家庭訪問 28年4月1日より里親委託

(4) 社会教育への参加

① サッカー教室

小学5年2名、小学4年2名、小学3年1名、小学1年1名の6名が地域のサッカーに参加している。

小学3年生までは週1回土曜日に18時～20時、小学4～6年は毎週水・土の2回18時～20時、指導者の都合で水曜日のみ、途中から18:30～20:30の時間、喜連川グラウンドで練習を行う。また中盤から水曜日のみ月3回程度さくらスタジアムを借りて練習を行う。学年によって練習試合や大会などが不定期に入ってくる。

5年生は公式な大会も少なく年一回程度しかない。残念ながら地区大会で負けてしまったが、園の子たちもレギュラーで出ている子もいてとても良く頑張っていた。同じメンバーに4名が加わったがみんな知っている子たちなのでうまく溶け込んでいる。またサッカー教室に来ているときはちゃんと話も聞いて

いてとてもまじめに取り組んでいる。体も大きくなり試合も勝つことが増えてきた。

1～3年生は大きな大会はなく、数回練習試合などをする。練習も9月で終了となる。普段は基礎練習などをしっかりとやりつつ、サッカーの楽しさを学んでいる。

サッカーをすることで競争意識や仲間関係などの向上など色々なことが伸びる時期なので見守りつつ、指導していきたい。

②野球

小6男児1名が喜連川のクラブチーム「喜連川フォックス」に所属。基本活動は毎週土曜、日曜の9時から16時で練習。加えて練習試合、大会参加。

6月には栃木県学童軟式野球大会さくら市予選会があり、代表決定戦でサヨナラ勝ちし県大会出場を果たす。当園児もスターティングメンバーで出場し、思い出に残る実績を作ることができた。更にチームメートの保護者の理解と協力をもらうことができ、フォックス退団後から中学校野球部入部までの約半年間を「氏家ベースボールスポーツ少年団」で活動することができた。これは塩谷地区から構成される連合チームなので、監督、コーチをはじめ、チームメイトすらフォックスからの二人以外初対面で始まり、より一層本園児の地域での活動範囲を広げることができた。

②合唱

中2女児1名が、毎週土曜日の午前10時～11時45分まで、喜連川公民館にて合唱の練習に参加。平成27年4月5日さくら祭、6月7日雨情祭、10月25日さくら博、平成28年1月30日～31日合唱学校、3月30日東京にて少年少女合唱連盟合同演奏会、地元の老人ホーム慰問活動に参加した。

合唱団の中心的存在として、年下の子の面倒を見たり、先生からの期待も大きく、自信につながっており積極的に参加している。

(5) 育成会活動

養徳園では地域交流の一つとして、さくら市子ども会連合会に、養徳園子ども会として小学生以上～高校生、ケアワーカーを主に育成者として入会し子ども会への参加をしてきた。また、各地域小規模児童養護施設（オアシス、野辺山の家）は各地域の子ども会に入会し、行事等に参加している。

活動内容

本園では毎月第一木曜日に園内で子ども会会議を行い、園での生活、行事の確認などを行った。また、年間計画として、4月にお花見、大鍋パーティー、5月にGWお楽しみ会、夏休みにラジオ体操、わくわく体験キャンプ参加、一万人プール、那須のが原プール、9月に中高生登山、1月にちびっこ登山を行った。

また、年間を通じて登校指導を行った。

成果・課題

小学生の要望もありちびっこ登山を行い、好評だった。子ども達の安全面から登校指導は継続して行っていきたい。

養徳園子ども会の活動だけでなく、さくら市子ども会連合会の活動にもっと参加し、地域との交流が広げられればと思う。して残る。

(6) 衛生管理

毎月1回第3日曜日を衛生の日とし、室内及び園庭の清掃を行った。

(7) 防災訓練等

活動内容

年間防災訓練計画の作成、それに基づき各月に避難訓練及び消防訓練を行う。また、緊急連絡網の作成、緊急時対応マニュアルの配布、各ユニットに避難経路等の確認を行う。さらに12月には喜連川消防職員による総合消防訓練を行った。非常時用バッグ、非常時の備品、賞味期限など定期的に確認している。

成果・課題

- ・避難訓練は各月に実施。その訓練時には講話を行い、防災意識を高めるために、火の特徴・怖さなどのイラストを見せ説明した。
- ・12月の総合消防訓練時には、消火器を使った訓練や防災（地震）に関するビデオを見せてもらい、子どもたちにも貴重な経験になった。
- ・非常食の賞味期限を確認して、処分・不足分補充を行った。
- ・非常時防災バッグの中身のチェック、補充を行った。

4 委員会活動

別紙参照

5 行事

種別	日時	行事名	場所（行先）	参加者数		
				児童	職員	その他
園内行事	4/4	交通指導	園⇄小学校	2	1	
	5/2	GW楽しみ会（遊園地）	那須ハイランドパーク	16	11	
	5/3	GW楽しみ会（公園）	井頭公園、SL	5	4	
	5/4	GW楽しみ会（科学館）	こども総合科学館	4	3	
	5/5	GW楽しみ会（公園）	ひたちなか海浜公園	5	4	
	6/12	公文指導勉強会	養徳園研修室		6	
	6/15	幼児遠足	なかがわ水遊園	1	2	
	6/24	栃木SC訪問サッカー教室	喜連川運動場	28	7	5
	6/27	ゲーム大会	園庭	25	6	
	7/4	小運動会	氏家体育館	44	43	127
	7/6	七夕	園庭	34	12	
	7/20	奉仕作業	園庭・周辺・畑	30	30	
	7/24	公文集中勉強会	養徳園研修室	26	6	1
	7/29	まんじゅうづくり	養徳園食堂	13	7	
	7/30	たんぽぽプール	一万人プール	4	2	
	8/1	福田ホームプール		6	3	
	8/3	すずらんプール		5	3	
	8/6	あすなろプール		6	4	
	8/3~4	小規模合同旅行	由良海水浴場（山形）	12	5	
	8/20	バス旅行	TDL	36	25	1
	9/5	中高生登山	谷川岳（群馬）	18	12	4
	9/19	ゲーム大会	園庭	20	6	
	10/5	七五三撮影	スタジオオリス大田原店	2	3	
	10/12	里親交流会	鬼怒グリーンパーク	43	21	40
	11/7	七五三	御嶽山神社、食堂	36	17	1
	11/26	創立記念日	生活指導室・食堂	51	44	2
	12/6	総合避難訓練	園庭	28	8	6
	12/19	ゲーム大会	さくらスタジアム	25	7	

	12/20	奉仕作業	養徳園園内	34	6	
	12/12	ロールケーキ作り	食堂	30	13	
	12/23	クリスマス会	各ユニット	全員		24
	12/29	すずらん忘年会	足利フラワーパーク	7	7	
	1/3	ちびっこ登山	古賀志山	7	5	
	1/9	カレンダー製作	養徳園食堂	18	4	
	2/13	バレンタインケーキ作り	各ユニット、食堂	20	7	3
	2/13	ユニット外出（野沢）	フォーラム那須塩原	4	3	
	2/21	〃（なのはな）	宇都宮市スケートセンター	7	4	
	3/3	ひなまつり	IFホール、食堂	36	15	
	3/11	災害から食を考える	養徳園食堂	18	10	6
	3/11	なのはな旅行	那須高原	7	4	
	3/26	児童送別会	生活指導室、食堂	全員		9
	3/26	同窓会	黒潮	3	21	14
施設 交流	2/6	児童福祉施設文化祭	高根沢町民ホール	51	40	
	11/29	栃木SC交流会	那須スポーツパーク	12	3	
招待 事業	6/14	ALSOKサッカー観戦	栃木グリーンスタジアム	10	3	
	7/12	養徳園vs下野三楽園対抗スポーツ大会	日光体育館	16	5	
	7/19	人形劇招待（カップの会）	栃木県教育会館	14	6	
	8/22	那須シニアLCすいか割り招待	ふれあいの丘	28	10	4
	9/23	栃木SCホーム試合観戦招待	栃木グリーンスタジアム	15	3	
	12/18	クリスマス招待（西那須野教会）	西那須野教会	7	3	
	12/19	宇都宮乳児院クリスマス会招待	宇都宮乳児院	2	1	
	12/27	日光アイスバックスアイスホッケー観戦招待	霧降アイスアリーナ	5	2	
	6/27、8/30 2/27	NPO法人まちづくりネットワーク笑顔 遊びと昼食	とちじゅう交流館	延べ 10	2	

6 施設の社会化

(1) 生活指導室の地域開放

市居合道部が毎週月・水・金、練習のために利用している。

(2) ボランティアの受け入れ

学習・ギター・読み聞かせボランティア等、延べ35名（ボランティア企画行事及び招待を除く）を受け入れた。

園内で実施されたボランティア企画行事は次の通り

4/12	西那須野RCバーベキュー	40名	
8/7	つばさの会交流会	3名	ゲーム、サントウイチづくり
8/23	宇都宮東ローターアクト	12名	花火
11/21	更生保護女性会	20名	園内窓ふき
12/20	H.O.G栃木チャプター	30名	サンタがハレに乗ってやってきた
12/20	日光アイスバックス	4名	交流会
12/25	サンタの会	19名	クリスマス会

(3) 短足おじさんの会（社会人先生）

宇都宮の美容師荒川憲司（通称ん太郎）さんが代表の短足おじさんの会が行う「社会人先生」が、毎月第2、4日曜日に園内で実施され、様々な職業人が来園して話を聞いた。

27年度は計15回実施され、延べ210人の児童が参加した。

7 施設見学・研修、実習生の受け入れ

(1) 施設見学・研修

5/20	雀宮民生児童委員	20名	
5/23	作新学院短大	34名	
6/17	下野市民生児童委員	30名	
8/21	小山市子育て・家庭支援課	3名	
8/27	上三川町教育委員会	18名	
9/4	栃木少年友の会	8名	
9/18	新任里親研修	20名	
10/6	下野市更生保護女性会	26名	
11/6	片瀬学園	1名	
11/20	泗水学園	6名	
12/7	高根沢町要対協・泗水学園	43名	
12/8	福島学園	2名	他

(2) 施設実習

・保育士

白鷗大学	2名	埼玉純真短期大学	2名
宇都宮共和大学	2名	TBC	2名
聖徳短期大学	4名	淑徳短期大学	4名
作新学院短期大学部	5名	共立女子大学	2名
佐野短期大学	2名	東京家政大学	2名
東京未来大学	2名	立正大学	2名
足利短期大学	1名	宇都宮ビジ電	4名
聖徳大学	2名	東京家政短期大学部	2名
川口短期大学	1名		

・社会福祉士その他

国際医療福祉大学	3名
----------	----

計 42名

8 職員研修

(1) 法人内研修

・社会福祉施設の運営（新任、4/22）

大谷園長、豊岡事務長

・先輩職員から伝えたいこと（新任）

齋藤統括主任、酒井主任保育士（5/14）

加藤園長補佐、森主任保育士（5/14）

・調理員から伝えたいこと（新任、7/10）

君嶋、臼井

・子どもの理解と援助のあり方（全職員、11/18）

東、加藤

・中堅が語る児童養護（1/20、1/27）

氏養：三ツ俣、竹石、関 養徳園：平野、栗林

(2) 園内研修

- ・ 学習指導の現状と課題(5/22)
- ・ 児童家庭支援センターと本体施設の連携(6/22)
- ・ 生い立ちの整理と育ちアルバム (7/22)
- ・ 性教育について (9/25)
- ・ 生い立ちの整理と育ちアルバム (10/22)
- ・ リーピングケア及びアフターケアについて (11/25)
- ・ 生い立ちの整理と育ちアルバム (1/22)
- ・ 性教育について (2/22)

<施設処遇援助事業>

2月26日『子どもの育ちと施設養育』

講師 菅原哲男 (埼玉・光の子どもの家理事長)

(3) 施設外研修

日時	研修名	場所	参加者	
7/1~2	関ブロック児童養護施設研究協議会	長野市・メルパルク長野	園長	
7/3	性虐待の理解と対応	国立きぬ川学院	小口	
9/11	SBIブロック別研修&交流会	ホテルシーサイド江戸川	福田美	
10/7~9	第69回全国児童養護施設長研究協議会	秋田市・秋田ホテルキャッスル	園長	
10/29	公文関東広域地区勉強会 手元観察研修を契機に重点支援施設に志願された施設の活動	東京都品川区・公文教育研究会	南部、小口	
10/28~29	第30回関ブロック児童養護施設職員研修	栃木県日光市・あさやホテル	園長、加藤準、豊岡、福田美、田島、平野	
11/26~27	第11回関東ブロック児童養護施設事務職員研修会 「新会計基準ついに移行」講師 鳴滝泰史 「社会福祉法の改正と予測される課題」講師 武藤泰明	高崎市・ホテルメトロポリタン高崎	豊岡	
1/9~11	東日本第12回SBI児童養護施設職員研修	ホテルシーサイド江戸川	寺澤	
1/30	里親支援に関わる専門職対象支援技術向上セミナー	恩賜財団母子愛育会	赤羽	
2/1・2/8	コモンセンスペアレントトレーニングトレーナー養成講座 講師 岩井幸祐 (中央児相)	県北児童相談所	水沼、橋本	
2/13~14	日本臨床心理士会定例研修会Ⅱ	大阪科学技術センター	東	
児童家庭支援センター	4/19	ノバティ・バーフェット プログラム入門講座	NPO法人子ども家庭リソースセンター	橋本
	4/27	群馬・希望館 児童養護施設、児童家庭支援センター見学	群馬県高崎市	片桐、橋本、福田寿
	5/18	茨城・道心園 子ども家庭支援センター見学	茨城県土浦市	片桐、橋本、福田寿
	5/21	埼玉・愛の泉 子ども家庭支援センター見学	埼玉県加須市	片桐、橋本、福田寿
	5/29	全国児童家庭支援センター協議会総会	東京都千代田区・全社協	片桐
	5/28	児童相談業務担当職員研修 (第3回)	中央児童相談所	橋本、福田寿
	6/2	地域虐待対応研修企画者養成研修	横浜市・子どもの虹	片桐
	6/18	NPO法人だいじょうぶ見学	日光市	片桐、橋本、福田寿
6/19	児童相談業務担当職員研修 (第4回)	中央児童相談所	橋本、福田寿	

7/1	全児童家庭支援センター協議会実務者研修	神奈川県横須賀市・資生堂湘南研修所	片桐、橋本
7/23	児童福祉司任用講習会	中央児童相談所	橋本、福田寿
7/27	社会福祉援助技術論、社会福祉援助技術演習		
7/30	講師 会田元明		
8/12	とちぎ若者サポートステーション見学	宇都宮市	片桐、橋本
9/3	児童福祉司任用講習会	中央児童相談所	橋本、福田寿
9/4	児童虐待援助論、児童虐待援助演習		
9/15	講師 鈴木友之		
9/5	ひきこもっている子に家族はどう関わるか 講演会2015 講師 池田佳代（臨床心理士）	県庁東館4F講堂	橋本
9/11	地域包括支援センター而今見学	さくら市・にこんきつれ荘	片桐
10/15	依存症関連相談技術研修会	栃木県精神保健センター	橋本
10/29	依存症相談に役立てる動機づけ面接法		
11/28~29	社会福祉士実習指導者講習会	国際医療福祉大学	片桐
12/1~3	市町村虐待対応指導者研修	横浜市・子どもの虹	片桐
2/19	関東地区児童家庭支援センター専門研修会 児童家庭支援センターにおける相談対応のスキルアップ	東京都千代田区・星陵会館	橋本
2/20~21	バーチャル・サポート ファシリテーター養成講座	子ども家庭リソースセンター	橋本
2/27~28			
3/1~2	テーマ別研修「家族への支援-死亡事例から学ぶ」	横浜市・子どもの虹	橋本

栃養協研修事業及び部会研修

	日時	研修内容	場所	参加者
新任	4/27	社会人として ・心構え、ビジネスマナーなど	とちぎ福祉プラザ	小口、金澤、福澤、手塚
	6/29	社会的養護の歴史と現状 講師 福田雅章 措置制度と児童養護施設 講師 牧 恒男 子どもの心理Ⅰ・Ⅱ 講師 日高茂暢	とちぎ福祉プラザ	小口、金澤、福澤、手塚
	11/16	子どもの心理（思春期） 講師 日高茂暢 児童相談所・一時保護所の現状と課題 講師 藤本早 社会的養護関係施設の現状と課題 （乳児院、母子生活支援施設、自立援助ホーム、ファミリーホーム）	とちぎ福祉プラザ	小口、金澤、手塚
若手	5/22	施設ケアの実際 講師 福田雅章 発達臨床心理学Ⅰ・Ⅱ 講師 秋場 博	とちぎ福祉プラザ	桑原、栗林、加藤ま
	9/17	子どもの権利を守る取組 講師 館野太一 不登校問題に取り組む～ロールプレイングを活用して～ 講師 牧裕夫（作新大）	パーティ	桑原、栗林、加藤ま
	11/27	発達臨床心理学Ⅲ・Ⅳ 講師 秋場 博 ペアレントトレーニング 講師 秋場美智子	とちぎ福祉プラザ	桑原、栗林
中堅	6/10	障害福祉のしくみ 講師 若倉健 中堅職員に求められる役割 講師 山田路子	とちぎ福祉プラザ	伊藤、水沼
	10/13	権利擁護・リビングケアとアフターケア 講師 福田雅章 子ども間の暴力防止・愛着の観点に基づく養育 講師 藤岡孝志（社事大）	とちぎ福祉プラザ	伊藤、水沼
心理・個別	6/12	施設養護における心理職の役割 講師 増沢 高（子どもの虹）	パーティ	東、橋本
	9/2	児童福祉施設における職員支援とコンサルテーション 講師 加藤尚子（明治大学）	とちぎ福祉プラザ	東、橋本

	11/12	施設で暮らす子どもの育ちを支える 講師 国分美希 (至誠大地の家)	とちぎ福祉プラザ	橋本
	12/9	発達障害と愛着障害の見極めとその支援 講師 星野崇啓(さいたま子どものこころクリニック)	とちぎ福祉プラザ	園長、東、橋本、小口、
専門	12/15~17	児童福祉施設指導者合同研修	横浜市・子どもの虹	菅原
	1/12~14	児童養護施設中堅職員研修会	東京都・全社協灘尾ホール	鈴木
	2/8~9	ファミリーソーシャルワーク研修	東京都・TOC有明コンベンションホール	加藤準
施設長	6/16	施設長及び幹部職員研修会 社会福祉法人制度改革 講師 直井修一 (飛山の里福祉会理事長)	那須スポーツパーク	園長、加藤、豊岡、小川
ケアワーカー				
	9/17~18	新任職員研修 ・施設見学 (氏家養護園、那須子どもの家、那須学園) 情報交換会 ・先輩からのアドバイス~私はこうして乗り越えてきた~ ・グループ討議「日々のケアで悩んでいること」	民宿しんこう苑	小口、金澤、福澤、手塚、桑原、園長
FSW	9/12	児童養護施設におけるFSWの役割 講師 島川丈夫 (埼玉県・あいの実)	県庁昭和館	片桐
	11/26	施設見学	茨城県・筑波愛児園	片桐
	3/4	講義 対応の難しい親への支援について 講師 塩田規子 (救世軍世光寮)	県庁昭和館	片桐
心理	13/8	子どもの権利擁護を考える 講師 大竹 智 (立正大)	とちぎ青少年センター	東
看護師	7/31	乳児・児童の皮膚トラブルとスキンケア	宇都宮乳児院	近江
	12/17	発達障害と施設でのケア 講師 佐藤俊夫 (ふじ発達研究所)	宇都宮乳児院	近江
被措置児童等虐待防止	1/28	第1回被措置児童等の権利擁護・虐待根絶のための研修会	パルティ	園長、福田美、加藤ま、栗林、滝澤、及川、田島、佐藤菊

平成 27 年度 地域小規模児童養護施設事業報告

『オアシスの家』

平成 19 年 11 月 1 日(土)開所

子どものメンバー

6 名

小学 5 年男児	1 名
中学 1 年男児・女児	各 1 名
中学 3 年男児・女児	各 1 名
高校 3 年男児	1 名

職員 3 名

人 見(♀保育士)
平 野(♂保育士)
佐 藤(♀非常勤)

通学状況

喜連川小学校

喜連川中学校

さくら清修高等学校

行事報告

H27. 5.3

映画

8.3~4

野辺山の家とともに、山形の海へ一泊旅行

定期通院状況

中学 2 年女児 月 1 自治医大 こころの診療科 阿部先生受診

(落ち着いて生活できているときには、職員のみが行き薬を処方してもらった)

服薬

朝食後 コンサータ 36mg・リスパダール 0.5mg

夕食後 リスパダール 0.5mg

生活状況

職員は変わらずで、男児一人卒園し、4 月より女児一人入ったが、以前オアシスで 6 年近く生活した子だったため、生活にすぐに馴染んだ。

小学生は、児童館・図書館に行き、友人と共に遊んでいた。

中学生は、休日は、部活や、友人と遊んだりして家にほとんどいなかった。

中学 2 年男女、自分がやりたいこと(ゲーム・マンガ読み)をやると、のめりこんでしまい時間の概念がなくなり注意を受けると、逆切れすることが見られた。また、R(中 2 男児)から K(中 2 女児)への指摘も多く 2 人の言い争いが多く見られた。

高校生は、6 月で部活を引退し、大学受験に向け夏休みよりほぼ毎日塾通いとなり多忙な日々を送っていた。家でも勉強していたため、他児のモデルとなっていた。

受験生 3 人いたため、塾通いが大変だったが、ピリピリすることもなく、比較的落ち着いた日々を送っていた。全員で出かける機会は少なかったが、中高生は、友人と出かけることが多かった。それぞれが、自分の時間を持ち、のびのびと生活していた。

今後の課題

今年も高校受験生 2 人いるが、勉強へ関心がないため意識が持てるようになっていきたい。個々が落ち着いて生活できる環境を配慮し、安心感が持てるようにしたい。

『野辺山の家』

平成 22 年 4 月 1 日 (木) 開所

H27. 4. 1~H28. 3. 31 まで 6 名

・子どものメンバー

小学 4 年	男児	1 名
小学 5 年	男児	1 名
小学 6 年	女児	1 名
小学 6 年	女児	1 名
中学 3 年	女児	1 名
高校 3 年	女児	1 名

・職員 3 名

菅原 (女)	保育士
田島 (男)	指導員
見目 (女)	非常勤 (～10 月)
小林 (女)	非常勤 (10 月～)

○通学状況

- ・喜連川小学校 (徒歩) 野辺山地区登校班 1 班 (近所児童 3 名、野辺山の家 4 名)

昨年度まで正門までの登校指導を実施していたが、中・高学年が多いため終了。

野辺山育成会会長よりお願いされ、野辺山の家で登校班班長 (小 6 女児) を引き受ける。また、地域環境 (人通りが少ないことや送迎する家庭がほとんど) に合わせて下校時のみ迎えを行った。

- ・喜連川中学校 (自転車)
- ・さくら清修高校 (自転車・バス)

○行事報告

H27. 8. 3~4 オアシスの家と合同一泊旅行 (山形、福島方面)

- ・高齢児の部活動等で日程調節が難しかったが、全員揃っての外出希望の声が多かったため、話し合いのもと日程を合わせ映画、外食等へ出かけた。

- ・季節の行事は、子どもたちと一緒に室内を装飾し行事に合わせたメニューを調理し由来を伝えながらお祝いをした。クリスマスは、すべて子どもたちのアイデアでパーティの内容も充実したものになった。

- ・誕生会は例年通り家で行った。誕生者の希望に合わせたメニューを準備し、全員でお祝いした。

○定期通院状況

- ・小学5年男児 済生会小児科（高橋医師）通院。

超低体重児で誕生。乳児院時から定期的に受診している。診察は問診のみ。今後必要に応じて脳波検査を実施し、発達状態を観察する。

学校内での血液検査結果、コレステロール数値が高いことがわかり受診。5日間入院し食事指導を受ける。定期的に検査（採血、尿）にて要観察。

4/20 6/2~7（入院） 7/6 10/5 1/18 受診（問診のみ）

- ・小学6年女児 国際医療リハビリテーションセンター通院。

2か月に1回、小児神経科、作業療法受診。

デパケン（けいれんを予防したり興奮を和らげる薬）を夜のみ服用していたが、5/11脳波検査実施。結果、異常なしとのことで服用を中止する。

作業療法においては、まだ本児の自己評価が低いため継続していたが、本児が通院を拒否するようになったため2/23の受診を最後に終了した。医師より、情緒障害であることや、成長期でもあるため、気持ちのコントロールは15~6歳までは難しいであろうということで、今後は必要に応じて通院する。（次回8月予定）

○心理士によるセラピー（本園：毎週1回実施）

- ・小学6年 女児
- ・中学3年 女児

*大人も、さまざまな角度からアドバイスをもらい、子どもたちとの関わりを見直しながら実践し体験を通して学ぶことができた。

○生活状況

- ・登校班においては、育成会会長のお願いにより小6女児が班長を任された。

育成会会長の依頼により2年間実施していた登校指導も、高学年が多いため終了となった。野辺山の家が中・高学年4名ということで会長からも頼りにされたが、集合時間を守れないといったことがたびたびあり、育成会会長から注意を受けた。また、登校の様子が危ないと、学校からも指導があった。

・プライベート空間、境界線、性に関することなどみんなで話す場を工夫し、生活の中のあらゆる場面で会話を重ね一緒に実践を心がけた。

・子どもの家庭状況は一人ひとり違うため、より細かな配慮を心がけた。状況に応じてみんなで話し合う、個別で話し合う場を作るなど、子どもたち同士が素直な気持ちを話せる雰囲気を意識した。自分の言葉で伝えようとする姿が日に日に増え相手の姿を通して自分を振り返る姿も見られた。

- ・休日は、児童館や図書館を利用し地域の友だちとの時間を楽しんだ。

特に小4~5男児はルールや時間等の理解が難しく、またテレビゲーム、アニメビデオなど会話がない空間を好むため、天気の良い日は外で、雨の日はトランプなどの身近な遊びではあるが、全

員で楽しむ機会を増やした。自転車免許を取得したことで、大人とサイクリングや、おつかい等通して行動範囲が少しずつ増えている。

・小6 女兒 2 名は、喜連川マーチングバンドに一員として取り組んだ。勉強と練習の両立が大変なうえ、最年長としての役目（後輩への指導、行動等）の重さで、何度も辞めたいと言いだすことが多かったが、最後までやり遂げた。

・中3 女兒は、受験生ということもあり緊張と不安で苛立ちがみられた。志望校は、自分の行くべき高校であると頑なな態度であったが、推薦制度がないという理由から、願書提出直前に別の高校に変更し、推薦で受験、無事合格した。

・高3 女兒は、好きなことへの行動力は早いですが、その他については現実逃避し、時々涙することが多くなった。アルバイトも、働くことへの興味が無い本児にとっては週 2~3 日が精いっぱい現状であった。短大進学（AO 入試）も早々決定し、一人暮らしを希望していたため時間を有効に使うよう促したが、2 月中旬にアルバイトも辞め、引っ越し準備も取り掛かることができず、必要な時以外は居室に引きこもり、布団の中での生活が続いた。

○今後の課題

子どもの言動や変化に気を配り、一人ひとりが落ち着いて生活できる環境。共同生活において、個々の思いや考えを話せる雰囲気作りに心がける。

成長とともに出てくる問題行動や親にどう向き合っていくかを考えながら関係をつくる。

児童家庭支援センターちゅうりっぷ 平成 27 年度事業報告

本年度は前述の事業計画に基づき、児童家庭支援センターの基礎作りであった。電話相談による対人援助スキルを県内外の各種研修で向上させるとともに、電話によって知りえたケースから関係機関と情報交換を行い、当事者である子どもや保護者の最善の利益となるよう当事者との信頼関係を作っていた。また子育て短期支援事業の契約市町を平成 27 年 4 月当初の 3 市から平成 28 年 3 月末日現在で 6 市に増やし、県北地域を中心に要保護家庭への支援拠点として子どもの居場所づくりに貢献している。

1 虐待予防および早期発見・早期対応に関する相談事業

○ 月別相談実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規受理人数	5	4	1	5	3	4	3	2	4	1	4	6	42
継続相談人数		3	4	4	6	7	10	8	6	10	7	6	71
月別相談実人数	5	7	5	9	9	11	13	10	10	11	11	12	113

○ 月別相談延べ件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話相談	11	33	13	23	67	57	24	52	60	36	59	43	478
来所相談					8	2	6	5	2		4	5	32
訪問相談	17	38	41	22	7	6	10	11	11	12	6	6	187
通所相談													0
派遣相談													0
心理療法等													0
メール相談						6							6
手紙相談													0
その他													0
月別延べ件数	28	71	54	45	82	71	40	68	73	48	69	54	703

○ 相談・指導内容の種別件数（実人数）

養護	虐待 (再)	保健	障害	非行	育 成				いじめ	DV	その他	合計
					性格行動	不登校	適性	しつけ				
27	11	2	1	1	4	5					2	42

○ 児童相談所委託指導

3人（県北 3人）

2 要保護児童一時預かり事業

○ ショートステイ事業

7件 計 27日	}	さくら市	1件	1日
		矢板市	1件	4日
		大田原市	3件	17日
		高根沢町	2件	5日

※ショートステイ契約 さくら市、矢板市、宇都宮市、
H27年度新契約 高根沢町（9/11～）、大田原市（11/2～）、那須塩原市（12/18～）

○ トワイライトステイ事業

0件 計 0日

※トワイライトステイ契約 さくら市（H27年10/1～）

○ 緊急一時保護委託

9件 計126日

{	中央	6件	78日
	県北	3件	48日

3 養徳園本園児童へのケアマネジメント機能

平日、小学生の帰園後にちゅうりっぷスペースを活用した学童保育を行う。

4 社会的養護機能および他機関との連携

- さくら市要保護児童対策地域協議会への参加（代表者1回、実務者3回）
- 個別ケースに関する会議または他機関との同行支援 10回
- さくら市民生・児童委員協議会定例会 4回
- 県児童家庭支援センター事業に係る関係機関会議 3回
- 県児童相談業務連絡協議会 3回
- 県児童虐待対策関係市町児童福祉・母子保健担当者合同会議及び研修会 1回

5 地域支援・子育て支援事業

- 主任児童委員・地域協力員研修会 1回 66人

6 市町村の求めに応ずる事業

- 高根沢町要対協実務者研修会 1回 37人

平成27年度給食委員会活動報告書

<クッキングクラブ>

- ・計画書通り、年間通して3回実施。(釜の蓋まんじゅう作り・ロールケーキ作り・バレンタインチョコレート作り)
- ・食に携わることの意味を通して、去年の反省にあったように希望児のみで行った。クッキング内容によっては、年齢幅広くの参加がみられた。
- ・3・11「災害を食から考える」は参加した幼児、小学生が集中して東日本大震災の話聞いていた。

<畑>

- ・一部を耕しさつまいも作りを行った。昨年度の反省を活かし、苗植えから行った。順調にさつまいもが育ち、ユニット1畝ずつ、さつまいも掘りをした。たくさんの収穫あり。
- ・職員が堀ざらいに養徳園として参加した。地元の方との交流は必要と感じた。
- ・一部、花畑にしたが芽が出なかったものも多かった。
- ・去年の課題として、ブルーベリー植えを検討していたが、なしとした。

<その他>

- ・4月に園庭にて、大鍋花見パーティーを行った。
- ・給食委員が主となり、職員向けの栄養講座を開いた。

講師・梶原真咲子さん(管理栄養士)

H27・9・14(月)13時~14時半 実施

- *児童向けの栄養講座 H28・1・24 実施予定だったが、前日雪の為、延期した。

平成27年度 環境美化委員会活動報告書

〈環境美化の目的〉

日々の生活の中で、子供たちが「自分たちは大切にされている」という肯定感を育めるような調和のとれた心地よい住環境づくり

〈年間活動〉

年2回の奉仕作業の計画、実施。

年5回の委員会会合。事業内容を12に分け、担当割り当て現状を確認しながら行いました。

〈各担当報告〉

修繕	各ユニットから修繕箇所を申告(修繕申込み書提出)してもらい職員が修繕、または業者に依頼。
花壇・園庭	寄付された植物をプランターに植え替え、園庭に飾る。 花壇・園庭の除草。花壇の修理。玄関の花を飾る。 木の剪定。除草
ワックス	ワックスの補充や備品管理。
衛生の日	月1回の休日を施設の衛生の日として、子供たちとともに居室の清掃を行った。が、周知が徹底して出来なかった。7月、12月には、職員・子供と共同で、大掃除を実施。
布団	必要に応じて、寝具を点検し、交換。 布団倉庫の整理整頓。
工具の整備・管理	工具の整理。不必要なものを処分。備品表の更新が出来ると良かった。
運動用具	使えないグローブ、ラケットを処分した。空気の抜けている、穴の開いているボール処分した。一つ一つの物品を分かりやすく置くようにしたい。
親子訓練室からまつの整備・管理	利用後のチェック。月一組ぐらいだったので、備品のチェック表は、必要なかった。
倉庫の整備	倉庫の物品の把握。不要な物は、処分してきたが、スペースが出来ると、いつの間にか物が置いてあるということが多々あった。改善必要。
オアシスの修繕	オアシスの修繕など
野辺山の修繕	野辺山の修繕など
なのはなの修繕	なのはなの修繕など

〈成果と課題〉

- ・1年に2度は、子供たち、大人が一緒になって行う奉仕作業大切だと思った。
- ・玄関の靴を指定の位置にしまい、玄関をきれいにする事に重点を置いたが、脱いだままにしていた子はいつも同じ子だった。まだ、改善の余地はあると思うので、引き続き声かけを徹底していきたい。
- ・中庭の壁の汚れが気になるので、掃除をしていきたい。

- ユニットからの粗大ごみは、ユニットで処分してもらうよう周知していきたい。
- 年度末に粗大ごみを処分して、指導室がきれいになった。
- 制服、運動着類、たくさんある。年度途中で購入する場合は、1度見てもらってから購入してもらいたい。制服、運動着とても多かった。

平成27年度安全管理委員会活動報告書

目的：子ども達が安全で安心できる生活を送るために活動する。

構成委員：君嶋則子（指導者）、内山成史、松本晴紀、近江佐代子、桑原亮太、平野雅人、手塚成美、（小堀彰子、増山充：年度途中で退職）

活動内容

○ 防災

- ・ 年間防災訓練計画の作成

月1回避難訓練を実施した。また、12月には消防署に協力していただき、実際に水消火器を使い模擬消火活動を含めた総合訓練を実施した。その際、防災意識向上のための火災・自然災害の2種類のビデオを見せてもらった。児童は集中して見ていて、たいへん勉強になった。その後消防自動車・救急車に乗せてもらい、子どもたちは興味深く見入っていた。

この総合訓練には、外出しのユニットにも参加してもらおうと良い。

訓練内容は、早めに消防署と連絡を取るようになること。

- ・ 避難訓練、防災訓練の実施

訓練時に講話を行い、防災意識を高めるようにした。また、火の特徴や怖さを知る為に、絵・イラストなどを用意して具体的に提示した。

非常ベルの運動性を確認しておくこと。本館⇄のざわホーム

- ・ 緊急連絡網の作成

年度ごとに作り替えている。総合訓練時、連絡を回してみたが、時間が掛かったり・連絡漏れがあったりした。

- ・ 非常備品のお知らせ

各ユニットにある「非常用リュックサック」の中身の点検を行うことを目標にしたが、実施できず。

○ リスクマネジメント（事故防止対策の推進）

- ・ ヒヤリハットファイルの作成

昨年度と同様、記録として残せていないのが大きな反省点。日常、多くのヒヤリハットがあるはず。どの範囲で記録していくのがよいのか。打ち合わせなどの場面で、出し合って「危険」を確認することが大切。

児童の服薬管理について、投薬拒否の状況もあり、もっとしっかりした管理意識を持つことが大切。

- ・ 救急対応マニュアル

怪我、病気、発熱の具体的対応ファイルを作って記録した。また、心肺停止による「AED」の使用講習を行った。

衛生面での啓発ポスターや薬物被害に関するポスターを貼り、意識づけをした。

○ 自転車

- ・ 管理：管理ノート作成（窃盗等対応）パソコン内にデータとして残してある。

- ・ 自転車置き場の整理

なかなか行えず。東側の駐輪場、屋根の剥がれなど老朽化。修繕必要。

- ・ 自転車免許

小4以上を対象に施設長が行った。

- ・ 点検

ブレーキ タイヤの空気圧 注油 ヘルメット等を行った。

- ・ 修理

修理のできる職員を増やすことが必要。

点検不備の自転車があった。

○ 公用車

・ 公用車の管理

車検 事務長の指示により対応した。

日常の点検について。定期的に行えず。

洗車は、年4回を予定していたが、2回しかできなかった。

車内、ゴミの置きっぱなしが時々見られた。乗る人の意識が大切。

給油のマナー確認。乗る人が責任をもって給油すること。

○ 遊具

・ 死角の確認

・ 固定遊具および遊具の管理

上記2項目について、年2回実施している。

○ 不審者対応

・ 対応訓練実施できず。

是非、実施の方向で。

平成27年度 広報委員会活動報告書

1 主な活動内容

項目	内容	担当者
広報誌発行	5月、9月、1月の年3回の発行。養護園、養徳園、地域小規模で記事を分担する。作成後、各種関係機関へ発送する。	委員会メンバー全員 (養護園 岡田)
ホームページ 養徳園日記の更新	行事等の記事作成を行事担当者に依頼。 養徳園日記更新	
写真管理	写真フォルダー管理。	水沼 森
スケジュールの記入、 掲示物張り出し	月のスケジュールを職員室ホワイトボードに記入。掲示の張り出し。	加藤

2 反省、今後の課題

- ・ 広報誌オアシス
 - ・ パブリッシャーからワードに変わったことで作業がしやすくなった
 - ・ 年度始めに、年間の記事分担の割り振りをしていたことで、個人の役割が分かりやすかった
 - ・ 今年はホームページに記事を、広報誌で紹介したが…記事選びに悩み、偏りがあったのではないかと不安だった
 - ・ 広報誌に、つるし雛の案内を入れるなど、園の行事を紹介したのは良かった。他の行事も紹介してもいいのではないかと…。
- ・ ホームページ、養徳園日記
 - ・ 月に1回は各ユニットで記事をアップすることになったが、実施できないことが多く、間があいてしまった。
 - ・ 内容については、各ユニットの様子が身近に感じられるようなものが多く、職員の立場で読んでも興味が湧いてきた
 - ・ ホームページの中の「一日の流れ」に、写真を入れるなど整備をしたかったが実行できなかった
- ・ スケジュールの記入、掲示物張り出し
 - ・ 特定の職員が気にかけてすることでスケジュール記入はきちんとしていた。カレンダーの張替え、廊下の掲示物の修繕等は、広報委員でない職員も率先してくれた。
 - ・ 玄関の寄付者の掲示物を、年度を通して、月別アイウエオ順にした

平成27年度事業報告(氏家養護園)

1. 運営全般について

平成27年度事業計画に基づいて事業運営を行った。本園のユニット化も定着し、より家庭に近い環境を模索しながら家庭的養護を目指し支援に取り組むことができてきている。子どもたちの部活動等のニーズに応え勤務時間も臨機応変に対処しながら、子どもたちの頑張りの一助となっている。大きなけがや病気もなく元気に一年を過ごすことができた。

しかしながら高校を卒業したOBの一部が仕事に定着することができず、一時的に地域小規模児童養護施設みやこ家で預かり再度就労支援を行うなど苦慮した面もあった。日々のインケアの積み重ねが重要であることはもちろんのことリービングケアからアフターケアの必要性を大いに感じた1年であった。

平成27年度より国・県でも新たな制度ができアフターケア等への支援もできてきたため、有効に利用しながら今後さらに子どもたちの自立に向けての支援の強化をしていきたい。

2. 児童の動向

(1) 学年別在籍数(措置児童)

平成27年4月1日現在(みやこ家・琴平の家を含む)

	未就学	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	その他	計
男	3	1			4	3	1	3	4	1					20
みやこ家											1	3	2		6
女	4	2		2	2			2	3	1		1	1		18
琴平の家											2	3		1	6
計	7	3		2	6	3	1	5	7	2	3	7	3	1	50

平成28年4月1日現在(みやこ家・琴平の家を含む)

	未就学	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	その他	計
男	2	2	3			3	3		3	4					20
みやこ家											1	1	3	1	6
女	4	2	3		2	2	1		2	3				1	20
琴平の家											1	2	3		6
計	6	4	6		2	5	4		5	7	2	3	6	2	52

(2) 月別入退所状況

月	性別	初日 在籍数	入所数	退 所 後			その他	月末 在籍数
				家庭復帰	措置変更	就職・自立		
4	男	26		2				48
	女	24	3					

5	男	24					48
	女	24					
6	男	25	1				49
	女	24	1		1		
7	男	25					49
	女	24					
8	男	25				1	48
	女	24					
9	男	25				1	46
	女	23		1			
10	男	25	1				50
	女	25	3				
11	男	25			1		49
	女	25					
12	男	24					49
	女	25					
1	男	24					49
	女	25					
2	男	25	1				50
	女	25					
3	男	25	2	1		1	50
	女	25					

(3) 委託一時状況

学年・性別	児相	保護の期間及び理由				
中3・男児	中央	H27. 4. 1	~	H27. 4. 20	一時保護所満床のため	
小1・女児	県北	H27. 5. 30	~	H27. 5. 31	養育拒否（その後入所）	
小1・男児	中央	H27. 7. 30	~	H27. 9. 30	身体的虐待（その後入所）	
3歳・女児	中央	H27. 7. 30	~	H27. 9. 30	身体的虐待（その後入所）	
小5・女児	中央	H27. 9. 18	~	H27. 9. 30	ネグレクト（その後入所）	
小1・女児	県北	H27. 10. 21	~	H27. 12. 16	身体的虐待	
小1・男児	県北	H28. 3. 25	~	H28. 3. 31	身体的虐待（その後入所）	

(4) ショートステイ状況

月	年齢・性別	延日数		
4月			10月	
5月	8歳男児・9歳男児	4	11月	
6月			12月	7歳男児、9歳男児
7月			1月	7歳男児・9歳男児

8月	7歳男児・9歳男児	8	2月		
9月			3月		
			計		26

(5) トワイライトスティ状況

月	年齢・性別	延日数			
4月			10月		
5月			11月		
6月			12月	4歳男児・5歳男児	4
7月			1月	4歳男児・5歳男児	2
8月			2月		
9月			3月		
			計		6

(6) 卒業生の進路

3. 養護の状況

(1) 給食

嗜好調査を行い、子どもたちの声を聞きながら新しいメニューも取り入れた。朝食・夕食はユニットで作り、食べることによって、家庭的な環境で会話を楽しみながら食事ができ、団らんすることができるようになった。また余った食材等も次の食事に回したりと工夫することによって、残食もかなり減った。小学生の子どもたちも卵料理などの簡単な調理は進んで行う様子が多く見られた。今後も食事のマナーなどについて、年少のうちからある程度は身につけられるよう支援していきたい。

また今後も引き続き、子どもたちが早く帰って来たくなくなるような食卓づくりを目標として行きたい。

(2) 健康管理

① 健康管理

看護師を配置し、全職員で子どもたちの健康管理に留意し、全体的な健康管理も良好で

あった。ケアワーカーの子どもの健康状態を見極める目線もだいぶ定着してきた。(のべ通院人数：734人、通院月平均：61人)

幼児の女児が自家中毒ということで4回程入院を繰り返したが、年齢の成長と共に治まっていくだろうとの医師の診断あり、現在は落ち着いて生活できている。

また、発達的な課題を持った児童の入所が増えてきており、国際医療福祉大学リハビリテーションセンター等に通院し、服薬を要する児童が増えてきている。

② 通院状況 (のべ通院人数734人)

内科・小児科 (中津川クリニック・佐藤クリニック・小野子どもクリニック・中島医院・済生会病院・自治医大病院など) …249人

歯科 (森島歯科) …31人

皮膚科 (氏家皮膚科など) …163人

耳鼻科 (中川耳鼻科・済生会病院など) …68人

眼科 (加藤眼科・早坂眼科など) …49人

外科 (黒須病院など) …9人

整形外科 (半田クリニックなど) …28人

脳外科 (藤井脳外科) …1人

リハビリテーションセンター (とちぎリハセン、国福大リハセン) …136人

③ 各種予防接種

ポリオ…5人 MRワクチン…6人 日本脳炎…15人 四種混合…2人 インフルエンザ…49人

(3) 学習指導

小学生の学習する習慣が、徐々にではあるが身についてきた。また中学生も積極的に塾に通ったり同学年同士で成績を競い合う姿が見られるなど、相乗効果も見られるようになってきた。今年度は中学3年生1名が志望した県立高校に合格することができた。

(4) 職員研修等

日 時	研 修 名	場 所	参 加 者
4 / 27	栃養協新任者職員研修	とちぎ福祉プラザ	神谷
6 / 1	子ども虐待防止セミナー	国立オリンピック記念 青少年センター	小室
6 / 10	栃養協中堅職員研修	とちぎ福祉プラザ	大谷 (典)、坂本
6 / 16 ～17	栃養協施設長及び幹部職員研修	那須スポーツパーク	園長、齋藤
6 / 23	給食従事者研修会	塩谷庁舎	加藤
6 / 25 ～26	安全委員会方式実践セミナー	名古屋市ウイルあいち	園長
7 / 1 ～ 2	関東ブロック児童養護施設研究協議 会	長野市メルパルク長野	園長
7 / 3	きぬ川学院交流研修会	きぬ川学院	園長、坂本、神谷

9 / 1 1	コンプライアンス講習会	東京都	関
9 / 1 7 ～ 1 8	栃養協ケアワーカー部会新任職員研修	日光市	神谷、小坂橋
1 0 / 7 ～ 9	全国児童養護施設長研究協議会	秋田県秋田市	園長
1 0 / 8 ～ 9	接遇講習会	東京都	迫田
1 0 / 1 3	児童養護施設等中堅諸君研修	とちぎ福祉プラザ	大谷（典）、坂本
1 0 / 2 8 ～ 2 9	関東ブロック児童養護施設職員研修会	鬼怒川あさやホテル(当番県)	園長、齋藤、坂本、小室、鈴木（真）
1 0 / 3 1	栃養協中堅職員研修	とちぎ福祉プラザ	大谷（典）、坂本
1 1 / 1 0 ～ 1 3	児童養護施設職員指導者研修会（子どもの虹）	横浜市子どもの虹情報研修センター	酒井
1 1 / 1 2	栃養協心理職員・個別対応職員研修会	とちぎ福祉プラザ	高橋
1 1 / 1 6	児童養護等新任職員研修会	とちぎ福祉プラザ	神谷
1 1 / 2 6 ～ 2 7	関東ブロック事務職員研修会	高崎市	園長、鈴木（真）
1 1 / 2 7	児童養護施設若手職員研修	とちぎ福祉プラザ	岩崎
1 2 / 3 ～ 4	社会的養護を担う児童福祉施設長研修会	東京都全社協	園長
1 2 / 1 5 ～ 1 8	児童福祉施設指導者合同研修（子どもの虹）	横浜市子どもの虹情報研修センター	永井
1 2 / 2 1	児童養護施設等職員研修会	とちぎ福祉プラザ	松崎
1 / 1 2 ～ 1 4	全国児童養護施設中堅職員研修会	東京都	石川
1 / 1 2 ～ 1 5	児童相談所・児童福祉施設職員合同研修	横浜市子どもの虹情報研修センター	小野
1 / 2 8	栃木県児童養護施設被措置児童等権利擁護についての研修会	とちぎ福祉プラザ	園長他 1 5 名

上記以外に栃養協のケアワーカー部会、F S W部会、心理部会、調理員部会、事務部会、看護師部会のそれぞれの部会研修会参加。

法人研修の実施・参加（テーマごとに対象者が参加した。）

(5) 行事

日時	行事名	行き先及び内容	参加児童
4 / 1 2	西那須野ロータリークラブ招待 BBQ	養徳園	希望者 1 9 名
5 / 3	GW行事 宇都宮動物園	宇都宮動物園	幼児 6 名
5 / 3	GW行事 那須ハイランドパーク	那須ハイランドパーク	小・中・高生希望者 2 6 名
5 / 5	端午の節句	園内	全員
5 / 6	GW行事那須ハイランドパーク	那須ハイランドパーク	小学生野球部・中学生

	ク (野球部等)		8名
6 / 14	栃木SCサッカー観戦	グリーンスタジアム	希望者10名
7 / 4	法人小運動会	氏家体育館	全児童
7 / 7	七夕	園内	全児童
7 / 19	宇都宮カップ友の会招待 観劇「みにくいあひるの子」	栃木県教育会館	希望者10名
7 / 24	おおぞらユニット行事プール	真岡市一万人プール	おおぞら児童10名
7 / 27	ひだまりユニット行事プール	那須野が原ファミリープール	ひだまり児童10名
8 / 4 ~ 5	幼児・小学校低学年キャンプ	那須スポーツパーク	幼児・小学校低学年 13名
8 / 10	だいちユニット行事プール	真岡市一万人プール	だいち児童8名
8 / 11 ~ 12	高校生旅行	宮城県仙台市方面	高校生10名 卒園生1名
8 / 15	おおぞらユニット行事 花火鑑賞	喜連川花火大会	おおぞら児童8名
8 / 18 ~ 19	中学生キャンプ	福島方面	中学生12名
8 / 21 ~ 22	小学生キャンプ	日光、塩原方面	小学校高学年10名
8 / 24	そよかぜユニット行事プール	真岡市一万人プール	そよかぜ児童8名
8 / 25	食育工場見学	(株)カルビー清原工場	希望者17名
8 / 29	そよかぜユニット行事 花火鑑賞	上河内花火大会	そよかぜ児童8名
8 / 29	ひだまりユニット行事 花火鑑賞	上河内花火大会	ひだまり児童6名
9 / 13	そよかぜユニット行事 社会体験	宇都宮市ベルモール、映画鑑賞	そよかぜ小学生3名
9 / 22	ひだまりユニット行事 社会体験	烏山方面	ひだまり児童6名
9 / 27	十五夜	園内	全児童
10 / 10	そよかぜユニット行事 サーカス鑑賞	清原工業団地木下大サーカス	そよかぜ中学生3名
10 / 12	法人里親交流会	鬼怒グリーンパーク	幼児・小学生17名
10 / 13	ひだまりユニット行事 社会体験	壬生町とちぎわんぱく公園	ひだまり幼児5名
10 / 17	さくら市福祉まつり	氏家体育館	高校生 1名 中学生 1名 希望者 10名
10 / 24	ひだまりユニット行事 サーカス鑑賞	清原工業団地木下大サーカス	ひだまり児童11名
10 / 31	そよかぜユニット行事 社会体験	東京スカイツリー	そよかぜ中学生4名
10 / 31	おおぞらユニット行事	清原工業団地木下大サーカス	幼児・小学校低学年5

	サーカス鑑賞		名
11/3	おおぞらユニット行事 サーカス鑑賞	清原工業団地木下大サーカス	小学校高学年・中学生 5名
11/3	だいちユニット行事 サーカス鑑賞	清原工業団地木下大サーカス	だいち児童8名
11/7	七五三	御嶽神社	対象児童4名
11/14	栃木SCサッカー観戦	グリーンスタジアム	希望者10名
11/23	おおぞらユニット行事 社会体験	浅草方面	だいち児童8名
11/29	栃木SCとの交流会	那須スポーツパーク	希望者12名
12/19	クリスマス会	園内	全園児
12/28	大掃除・もちつき	園内	全児童
1/1	初詣	宇都宮護国神社	希望者 20名
1/28	プロレス観戦	鹿沼市ニューサンピア	希望者3名
2/3	節分	園内	全児童
2/7	栃木県児童福祉施設文化祭	高根沢町民広場トレーニング センター	全児童
2/27 ～28	スキー・スノーボード雪山体 験	会津高原たかつえスキー場	希望者12名
3/3	ひなまつり	園内	全児童
3/5	卒業を祝う会	園内	全児童
3/21	日帰りスキー・スノーボード 雪山体験	ハンターマウンテン塩原	中学生4名

4. 施設の社会化

(1) 施設実習

淑徳短期大学大学	4/20～	5/1	2名
〃	5/7～	5/18	2名
〃	5/19～	5/30	2名
共和大学	6/8～	6/18	2名
国際介護福祉専門学校	6/18～	6/27	2名
〃	7/6～	7/15	2名
足利短期大学	7/27～	8/6	2名
国際医療福祉大学	7/31～	8/25	2名
〃	8/26～	9/19	2名
作新短期大学	8/16～	8/25	2名
〃	8/30～	9/8	2名
佐野短期大学	9/11～	9/20	2名
聖徳短期大学	2/1～	2/11	2名
白鷗大学	2/22～	3/3	2名
〃	3/4～	3/14	2名

合 計

30名

(2) 里親養育体験

6 / 6 4名
6 / 13 4名

(3) ボランティアの受入れ

学習ボランティア…国際医療福祉大 サークル“まなびや” 毎週水曜日 (小・中学生対象)
奉仕作業…さくら市更生保護女性会
クリスマス会…サンタの会
定期的な寄付…マルハン那須塩原店、氏家店 (お菓子)、ギョウゾウ (野菜、米)、鹿沼市齋藤保夫 (米、餃子等)

(4) 施設見学

6 / 24 電気連合会 5名
7 / 22 大田原金丸分校教職員 10名
9 / 19 さくら市更生保護女性会 20名

5. 各ユニット事業報告

「おおぞら」ユニット

(1) 子どもの構成

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪
- ⑫

(2) 職員構成 (正職員 5名)

小野、関、松崎、加藤恵、小原澤

(3) 通学状況

氏家中学校 4名 (自転車)
南小学校 5名 (徒歩)
豊学校 1名 (車にて送迎、平日寄宿舍)
氏家幼稚園 2名 (幼稚園バス)

(4) ユニット行事報告

7月 プール (一万人プール)
8月 花火見学 (喜連川花火大会)
3月 食事会

(5) 定期通院状況

国際医療福祉大学リハビリセンター	5名	月1回	服薬
栃木リハビリセンター	1名	月1回	
済生会病院耳鼻科	1名	月1回	人工内耳点検等
済生会病院小児科	1名	月1回	経過観察

(6) 生活状況

- ・今年度より幼児2名が加わり、子ども・職員の入れ替えも多く、年度当初は落ち着かない面も多かったが、徐々に落ち着いた生活リズムができてきた。
- ・小学生の学習する習慣は身につけてきているが、中学生の学習はなかなか定着しない面もあり、学習意欲が見られない。
- ・年度の後半、中学生の学校への行き渋りが見られた。

(7) 今後の課題

- ・健康に留意し、欠席することなく元気に登校できるよう支援する。
- ・自分の持ち物の整理整頓ができ、物を大切にすることを養えるよう支援する。
- ・中学生の家庭学習の習慣化を図る。
- ・元気な挨拶ができるよう支援する。
- ・挨拶・お礼などがきちんとできるよう支援する。
- ・さまざまな社会体験を通して、自分にできることを見出すとともに、自己肯定感が持てるよう支援していく。
- ・幼児や小学校低学年等にとっての安心・安全な環境をさらに整える。

「だいち」ユニット（小規模グループケア）

(1) 子どもの構成

(2) 職員構成（正職員3名、非常勤職員1名）

大谷典、高橋亮、齋藤、鈴木節（年度途中琴平の家へ移動）

(3) 通学状況

氏家中学校	4名（自転車）
南小学校	4名（徒歩）

(4) ユニット行事報告

8月 一人一人プール

3月 食事会

(5) 定期通院状況

国際医療福祉大学 2名 月1回 服薬

(6) 生活状況

- ・一年間を通して落ち着いて生活ができていた。
- ・小学生は宿題だけでなく、自主学習もきちんと行うことができていた。
- ・中学生も定期テスト前だけでなく、習慣づけて学習に取り組むことができた。
- ・中3男児は、第一志望であった宇都宮工業電気情報システム系に見事合格した。
- ・小・中学生共に部活動も休まず一生懸命に頑張る姿が見られた。

(8) 今後の課題

- ・子どもの移動等があっても、現在の落ち着いた雰囲気が続けられるような支援をしていく。
- ・今後も死角等を作らず、子どもの安心・安全が保てるよう配慮していく。

「ひだまり」ユニット

(1) 子どもの構成

(2) 職員構成（正職員5名）

酒井、小室、迫田、岩崎、神谷

(3) 通学状況

南那須特別支援学校高等部	2名（自転車～電車・徒歩）
南那須特別支援学校中等部	1名（車にて送迎～スクールバス）
氏家中学校	1名（自転車）
南小学校	5名（徒歩）
氏家幼稚園	5名（幼稚園バス）

(4) ユニット行事報告

- 7月 プール (那須野が原公園プール)
- 8月 花火見学 (鬼怒川運動公園)

(5) 定期通院状況

中津川クリニック	1名	月1回	服薬
桧山医院	2名	月1回	服薬
国際医療福祉大学リハビリセンター	2名	月1回	服薬
自治医科大学病院	1名	3ヶ月1回	経過観察

(6) 生活状況

- ・年度初めは入・退所があり落ち着かない時期もあった。
- ・インフルエンザ、耳下腺炎に罹り出席停止になった児童も数名いたが悪化することなくおおむね順調に生活することができた。
- ・前年度までは男子の幼児もユニット内にいたが、今年度から女兒のみとしたためユニット内の雰囲気も変わってきた。
- ・発達の課題を抱えた子どもの入所が増え、通院・服薬状況が増えてきている。

(7) 今後の課題

- ・健康に留意し、欠席することなく元気に登校、登園できるよう支援する。
- ・あいさつを心がけ、誰からもかわいがられるような礼儀作法が身につくよう支援する。
- ・発達障害に関する学びを深め、理解しながら支援していきたい。
- ・さまざまな社会体験を通して自分にできることを見出すとともに、自己肯定感が持てるよう支援していく。

「そよかぜ」ユニット

(1) 子どもの構成

(2) 職員構成 (正職員3名)

坂本、武石、石川

(3) 通学状況

那須清峰高校	1名	(自転車・電車)
氏家中学校	4名	(自転車)

南小学校 4名（徒歩）

(4) ユニット行事報告

8月 プール（一万人プール）
花火鑑賞（上河内花火大会）
3月 食事会

(5) 定期通院状況

国際医療福祉大学リハビリセンター	2名	月1回	服薬
桜山医院	1名	月1回	塗り薬
自治医大病院	1名	月1回	服薬

(6) 児童相談所関係

フォローアップ 小学4年女児 1名 月1回 通所

(7) 生活状況

- ・ 皆休まず元気に登校することができた。
- ・ インフルエンザ等の感染症にも罹らず、元気で健康的な生活を送ることができた。
- ・ 発達の課題を抱える小学生が数名いるため、落ち着いた場面も見受けられるが概ね順調に生活を送ることができた。
- ・ 中学生1名が学校には休まず登校しているが、学校生活になかなか適応できないでいる現状がある。
- ・ 中学生は週1回～2回通塾し、学習意欲を養うことができている。

(8) 今後の課題

- ・ 健康に留意し、欠席することなく元気に登校できるよう支援していく。
- ・ 安心・安全な生活が送れるよう配慮し、支援していく。
- ・ 発達の課題を抱えた子どもたちの理解を深め、個別に丁寧にケアしていく。

6. 地域小規模児童養護施設「みやこ家」事業報告

(1) 子どものメンバー

- ① 高校3年生男児
- ② 高校3年生男児
- ③ 高校2年生男児
- ④ 高校2年生男児
- ⑤ 高校2年生男児
- ⑥ 高校2年生男児
- ⑦ 高校1年生男児

(2) 職員（正職員2名、非常勤職員1名）

永井、三ツ俣、長内

(3) 通学状況

JR・路線バスの公共機関を利用し通学している。

(4) 行事報告

- ① H27. 8. 11～12 施設機能強化推進事業 高校生研修旅行（仙台方面）
卒園生（1名）との交流
- ② H27. 12. 19 クリスマス会（本園行事に参加）
- ③ H28. 3. 5 卒業を祝う会（本園行事に参加）
- ④ H27. 3. 4 お別れ会外食

(5) 健康管理

部活動で少々怪我した子もいたが、特に大きな事故やけがもなく、無事一年を過ごすことができた。

(6) 生活状況

・日常生活

今年度は在園児童が比較的落ち着いた児童が多く、日々の生活も平穩に送ることができた。そのため生活リズムも各自が組み立て職員からの少ない声掛けでも崩れることなく過ごすこともできていた。

個別の面では、小規模での生活の仕方に不満や他児に対する苦情が挙がり対応する場面もあった。対象児童の話をよく聞きながら職員としてできること、できないことを明確にし、小規模内で生活するにあたって気を付けていくこと等の話を個別にすることで、生活の改善を図った。

・学校進路関係

今年度も高校3年生2名が無事就職することができ新生活を迎えることができた。誕生日が4月1日や3月末であったため、運転免許取得の関係で引っ越しがバタバタした面もあったが大きな支障もなく新生活を始めることができた。

年度途中で前年度から学校で問題行動が見られていた児童が、行動改善されることなく残念ながら退学を余儀なくされ、就職した児童が1名いたが就職先の社長さん等に面倒を見ていただき順調に仕事に取り組んでいるのは幸いである。

今後も高校を卒業することの大切さや社会に出ることのたいへんさを伝えながら、高校卒業に向けて支援していきたい。

(7) 今後の課題

- ・日常生活に関しては、これまで同様極力約束事を作らず、子どもたちの自主性を重んじながらの生活を基盤とし、状況に応じて適切な枠組み作りを行っていきたい。
- ・在園中の生活は落ち着いて生活できていたが、ここ1～2年の卒園生の中には、社会に適応できず勝手に退職してしまい、みやこ家に戻って再度就職活動をするといったことが数件あった。そのため今できていることを良しとするだけでなく、卒業後の生活を見越した支援が重要であるため、アフターケアからリービングケアに着目した支援に力を入れていきたい。

7. 地域小規模児童養護施設「琴平の家」事業報告

(1) 子どものメンバー

- ① 大学1年女兒
- ② 高校2年女兒

- ③ 高校2年女児
 - ④ 高校2年女児

 - ⑤ 高校1年女児
 - ⑥ 高校1年女児
 - ⑦ 高校2年女児
- (2) 職員（正職員2名、非常勤職員1名）
阿部、館野、岡本（年度途中退職）、鈴木（節）
- (3) 通学状況
JR・路線バスの公共機関を利用し通学している。
- (4) 行事報告
- ①H27. 5. 3 那須ハイランドパーク（本園行事に参加）
 - ②H27. 8. 11～12 施設機能強化推進事業 高校生研修旅行（仙台方面）
卒園生（1名）との交流
 - ③H27. 12. 19 クリスマス会（本園行事に参加）
 - ⑥H28. 3. 5 卒業を祝う会（本園行事に参加）
- *その他高校3年生は、とちぎユースアフターケア事業協同組合主催の自立支援プログラムに参加。
*不定期ではあるが外食
- (5) 定期通院状況
高1女児が本人の希望等もあり、氏家病院精神科に通院。うつ病との診断あり。学校も欠席日数が増加し、進級も危ぶまれたが何とか無事に進級することができた。通院・服薬継続中。高2女児もリストカットを繰り返す状況が続き、氏家病院精神科通院。通院・服薬継続中。それ以外の児童は、概ね健康に生活することができた。
- (6) 児童相談所による定期的な面談
高2女児が月1回程度児童相談所の心理面接を受けている。
- (7) 生活状況
4月に氏家養護園より高校入学を機に2名が琴平に移動して新メンバーでの生活が始まった。高校生としての自覚を促し、学校生活、アルバイト等個々が目的意識を持ちながら意欲的に取り組むことを目標とした。
琴平の家での生活は、健康的な生活を送ることを目標に規則正しい生活・充実した食生活を意識させた。同年代の子どもたちで共通の話題で盛り上がりつつある反面、お互いを認め合えず距離ができたりする場面もあり、関係づくりは事案がかかるものと痛感させられた。
また各々がアルバイトに励み、自身の携帯代や自分のほしいモノの購入、貯金等に充てた。アルバイトを通して、働いてお金を得ることの大切さを学び、さらには対人関係のより良い保ち方等々も合わせて学ぶことができてきている。
しかしながら残念なことに県央の定時制高校に通っていた女児は生活の乱れが顕著となり退学となってしまった。その後自立援助ホームに措置変更となった。

(8) 今後の課題

- ① 子ども同士また子どもと職員とのより良い関係作り
- ② 学校生活を基本とした生活の充実
アルバイト等計画的に行えるように支援していく。
- ③ 進路についての意識付けをしっかりと行うこと
対話の時間を持ち、できるだけ多くの情報を提供する。
- ④ 学習の習慣づけを行う
特にテスト前の取り組みをしっかりとできるように。
- ⑤ 園内外の交流行事への積極的参加
人との関係作りを意識させて行う。
- ⑥ 健康への意識付け
日々の食生活を通して意識を高める。病気に対して、早めの通院促し。

8. 各支援グループ反省

① 余暇支援グループ

予算案を立てて計画的に行事を立案し、概ね予算内で行事を行うことができた。園全体の行事や、ユニットごとの行事、学年ごとに分かれての行事など組み合わせを変えながら行事を行い子どもたちも大いに楽しめた様子であった。部活動をやっている子どもも多く、行事に参加できなかった場合は代替日を設けて別の日に行うなど調整をした。

高校生は部活動やアルバイトに精を出しているため、小規模で全体として行う行事が少なくなってしまうのはやむを得ないことであるため、今後は食事会等を増やしていきたいと思う。

② 子ども会議グループ

子ども会議の場面が、子どもたちの意見を集約しながら約束事を決める有意義な機会となってきている。また、子ども会議以外でも意見箱への投書等子どもの意見表明ができる場面が確立されるようになってきている。ユニットごとに子ども会議担当職員を配置し、細かい意見まで拾い上げ、それをユニット会議等で検討し、子どもに返していく習慣ができるようになってきた。

投書箱への投書はほとんどない状況ではあったが、日常的に子どもたちの意見を拾い上げ生活に反映できるよう支援していきたい。

③ 食育会議グループ

- ・食育会議のメンバーで毎月の献立を確認し合っている。
- ・子どもたちに朝夕のメニューを立てる機会を設けた。(各ユニットで1週間のメニューを決める) その結果、肉中心のメニューになってしまったが、かえって子どもたちからも「肉ばかりじゃ嫌だ!ときどきは魚や野菜も食べたい!」等の意見も出て、バランスよい食事の在り方を学ぶ結果となったことは、有効な機会となった。
- ・畑で栽培した野菜を収穫して、メニューに取り入れることによって子どもたちも積極的に野菜を食べてくれるようになってきている。
- ・食育の一環としてカルビーの工場見学、ヤクルト工場見学を行った。

④ 生活支援グループ

- ・各ユニットごとに生活全般についての意見をもらい、随時検討・協議し、より良い生活環境

の構築に努めた。

- ・日々の生活の中で、節約・物の大切さを子どもたちに伝えた。
- ・日常生活において、子どもたちが「大切にされている」と感じることができるよう、生活環境を整えていきたい。
- ・職員と子どもが一緒になって、環境整備ができる機会を継続する。
- ・安心して過ごすことのできる「生活づくり」を支援していく。

9. 総括

今年度を通しての入所率は、93.8%であった。4人部屋と個室に分かれているため、入所児の最後の一人二人は空いている部屋の年齢に応じた児童の受け入れしかできなくなってしまう（例えば、4人部屋で他3人が小学校低学年だとどうしてもそこには入れる学年が限定されてしまう）ため、なかなか100%の入所にはなりにくいのが現状である。（H28年度は52名満床の状況からスタート）

また最近の傾向として発達的な課題を抱えている児童の入所も増加しており、リハビリセンター等に通院し、服薬している児童が25%程在籍しているのも現実である。そのため日々の生活支援において苦悩する場面も増えてきている。園での生活はとりあえず職員が支援していけば何とかなることもあるのだが、学校という集団での生活を営むことができないと本人にとっても失敗経験が増え、自己肯定感を持ちづらくなってしまふ恐れもあり心配される場合もあるため、今後さらに児童相談所とも協議をしながら、その子にとっての“最善の利益”を追求していきたい。

中学生においても積極的に部活動に取り組む姿勢が多くみられ、規則正しい生活習慣を実践することにつながってきている。小学生も南ヶ丘JBCに積極的に参加し、数名がレギュラーとして結果を残してくれている。保護者会の方々との交流もスムーズになってきており、地域の方々の理解も深まってきているように感じられる。今後も地域に根ざした施設づくりを目標に施設の地域化・社会化に努めていきたい。

高校生の女兒においては、精神科通院が2名程おり年頃の女兒の支援の難しさを痛感しているところである。虐待に伴うトラウマが後になって出てくることも多く、高校生になってからだと残りの期間も限られてしまうことから、どこまで掘り下げ、振り返り、心理的なケアができるかが難しいところである。

来年度は10周年になるため、氏家養護園としてさらなるスキルアップをはかり“子どもの最善の利益”の獲得に向けて支援を高めていきたい。